

笑顔明中

10月 

平成23年10月1日 第7号

働くことを学ぶ！

校長 保母 直彦

悪天候のため、1日遅れの実施にももかわらず、体育祭にはたくさんのご家族や地域の皆さんにご声援をいただき、大変な盛り上がりの中、生徒達は満足な活動として終わることができました。ありがとうございました。来賓の方から、「どの生徒も競技や係の仕事に、全力で向かっている姿がとても良かった。」というお褒めの言葉をいただきとても嬉しく思いました。

10月は、学習に部活に、体育祭で培った財産を生かしながら取り組んで参ります。

台風一過、連休を缺んで、清々しい日々が続きました。季節は秋本番を迎えています。道ばたの萩が、気持ちよさそうに揺れています。祭りや季節行事も盛りだくさんあり、一年中で最も活動的な時季となりました。

さて、“七五三現象”という言葉が聞かれたことがあると思います。これは、幼子の成長を願っての行事でなく、新卒者が入社後三年以内に離職する割合を表していて、中卒七割、高卒五割、大卒三割だというものです。つまり中学校卒業し就職をした者の七割、高卒では約半分の若者が辞めているということです。最近はさらにその割合が増えているという話も聞きます。

雇われる若者が原因なのかそれとも雇い主に問題があるのか、一概には言えませんが、はっきり言えることは、双方が合わなかった、ミスマッチだったということです。その結果、62万人のニート、190万人のフリーターを生み出す土壌のようにもなっています。

そうした由々しき事態を招かないように、学校でも、「働くということはどういうことなのか？」「自分はどんな仕事に向いているのか」「どんな職種があるのか」等、将来、自分を生かし自立をするための知識や技能を身につけ、確実に職業選択ができる力を養うための学習(キャリア教育)に力を入れるようになりました。

まず、1年生では、「親の職業から学ぶ」というテーマで身近な親さんが働いている職場に出向き、実際にお手伝いをしたり話を聞いたりし働くことはどういうことかを自分なりに

にイメージを持ちます。

そして、2年生では、名古屋研修に出かけます。新聞社や放送局等のマスコミ関係や水族館や科学館などの文化施設等を訪問をして、そこで働いている人たちへ取材をしてきます。挨拶や言葉遣いなどにも注意をし社会人としてもマナーを学びつつ、社会へ目を向けます。こうした学習を積み重ね、いよいよ職場体験を行います。

その職場体験を今月予定しています。今年も町内の事業所18箇所に58名もの生徒がお世話になります。

小売店であれば、挨拶や言葉遣いはもちろんお客さんの身になっての対応も要求されます。笑顔だって必要になります。製造業であれば正確さや早さ、それを長い時間続けるだけの体力や精神力、集中力も必要です。働くということは、ある意味自分のもっているものを総動員して取り組まなければなりません。生徒にとって、職場体験の3日間は、働くということを通して、自分を見つめる貴重な時間ともなるはずです。

生徒は、職場体験を通して実に多くのことを学びます。そしてこの経験は、将来を意識して3年生での高校選択等につながっていきます。

この大切な授業も町内の方のご理解とご協力があって初めてできることです。大変忙しい中、生徒のために一手間二手間もお手を煩わせることとなります。快く受け容れて頂く事業所の皆様には、心より感謝しております。